

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝ツアー



野生生物保護センターでの環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

西表島の自然とロードキル

宇検村立名柄中学校
3年 廣瀬 郁羽

似ていて違う、奄美大島と西表島

私は最初、どちらもユーラシア大陸から分かれた亜熱帯の大陸島だから、奄美大島と同じように山ばかりで、山と海が非常に近いのではないかと考えていました。しかし、実際には、思ったよりも山と海の間が広く、平地になっていました。また、広大なマングローブ林が広がり、奄美大島よりもジャングルのような、南国の雰囲気がありました。この地形を生かして、西表では稲作が盛んにおこなわれているのが奄美とは違い、意外でした。

奄美大島と西表島は、どちらも数多くの固有種が生息しています。しかし、奄美大島は早くに大陸から分離したため、アマミノクロウサギなど昔からの姿を持つ遺存固有種が多く、西表島は比較的遅くに分離したため、イリオモテヤマネコやヤエヤマセマルハコガメなどの新固有種が多いです。そのため、奄美大島と西表島に共通する固有種はほとんどいません。どちらの島も、同じ世界遺産に登録されていますが、西表島で見た生物は初めて見るものばかりで、とても面白かったです。



西表島の森の中の様子



イリオモテヤマネコ(矢印)と移動式看板

西表のロードキル対策のここがすごい！

奄美大島では、アマミノクロウサギのロードキルの増加が問題となっていますが、西表島でも、道路を渡るイリオモテヤマネコのロードキルが問題になっています。様々な対策が行われており、その中でも、私はヤマネコの目撃地に移動式看板の設置するという方法に驚きました。より注意すべき場所をタイムリーに、ピンポイントで示すことのできるこの対策は、個体数が100頭前後と言われるイリオモテヤマネコだからこそできるものです。実際に、野生のイリオモテヤマネコを見た場所には、必ず移動式看板があり、非常に効果的な対策だと思いました。このような対策のおかげで、イリオモテヤマネコのロードキルは、なんと1年以上起きていません。ナイトツアーで見かけた車も、ほとんどが低速で運転していて、島民の方々のイリオモテヤマネコを守ろうという意識や努力を感じられました。

今回の研修は、私は実際に来ないと感じることのできない、西表島の自然や文化に触れることができ、とても貴重な経験でした。

奄美大島では、夜、山道でも車を早く運転する人が多く、特にアマミノクロウサギのロードキルが増加しています。西表島のように、地域全体でロードキルを防ぐという意識を高め、多くの人の行動に移すことができれば、奄美大島の野生生物のロードキルは減らせるのではないのでしょうか。そのためにも、イリオモテヤマネコのロードキル対策という前例を多くの人に伝え、ロードキルはなくせるんだという実感を持ってもらいたいと思います。



ヤエヤマツダナナフシ



イシガキトカゲ



サキシマハブ

私たちは、西表島で様々な生き物を見ることができました。私は、地元の人でもほとんど見ることがないといわれるイリオモテヤマネコを5頭も見ることができました。すぐ逃げない個体もいて、アマミノクロウサギのように個性があるんだと思いました。また、他にも、ヤエヤマセマルハコガメやヤエヤマオコウモリなどの生き物も見ることができました。